

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道中学校前通り線	87	L=370m	38	L=370m	路床入替え工の不要による減	影響なし	●	
公園	天朝山公園	60	A=12,927㎡	57	A=12,927㎡	入札による減	影響なし	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	水原総合体育館	220	S=5,194㎡	461	S=5,194㎡	耐震診断結果を受け、躯体の耐震補強及び非構造部材の耐震対策を行ったことによる事業費増	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
地方都市リノベーション推進施設	新病院	5,484	A=37,185㎡	7,764	A=37,185㎡	診察室等スペースの見直しやトリアージスペースの確保による床面積の増加に伴う事業費増	影響なし	●	
既存建造物活用事業	地域交流センター	200	S=1,753㎡	296	S=1,753㎡	耐震診断結果を受け、躯体の耐震補強及び非構造部材の耐震対策を行ったことによる事業費増	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	市立病院利用者数	人/年	あがの市民病院の年間延外来患者数を計測			90,081	H23	108,535	H29	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	98,949	事後評価	△	
指標2	地域交流センター利用者数	人/年	水原公民館の利用報告書に基づく利用者数を計測			36,004	H24	37,000	H29	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	40,473	事後評価	○	
指標3	防災訓練実施団体数	団体/年	水原駅周辺地区計画区域内の自主防災組織及び自治会について、防災訓練を実施した団体数を計測	-	-	3	H24	10	H29	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	4	事後評価	×	
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	あがの市民病院整備後の平成27、28年度以降は、前年比5%を超える外来患者数の増加がみられたが、平成29年度に一部診療科において体制が整わなかったことから、当該科における外来患者数が減少したことが要因となり、全体として目標値を達成できなかった。	診療体制整備の核となる常勤医師の確保等による診療科での体制が整い次第、目標値は達成可能と考える。
指標2	水原公民館を地域交流の拠点として再生する目的で、新たに整備した市民ギャラリーについて、利用者が平成28、29年度に5,000人/年で順調に推移しており、地域交流の場として広く利用されていることが増加したことに繋がった。	
指標3	水原総合体育館及び水原公民館の耐震化による避難所機能の整備は、施設利用者への防災意識向上には一定の成果が見られたものの、広く地域市民の防災意識醸成の動機づけに直接的に働かなかったことから、1団体の増加に留まった。	市主催の防災訓練の実施や自主防災組織の育成のための説明会など直接的に地域市民の防災意識醸成の動機づけとなる事業の展開が必要と考える。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

市道中学校前通り線歩道整備事業によって、これまで不十分であった歩道を整備したことから、あがの市民病院と水原中学校への安全な通院、通学の確保が可能となった。
また、この整備事業により天朝山公園に隣接する既存自歩道との接続が可能になったことで、市営バスの運行経路見直しと含めて、まちなかの回遊性の向上に大きく貢献した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 企画財政課、危機管理課 民生部 地域医療推進課、生涯学習課	平成30年7月～9月	総務部 企画財政課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2							
指標名		地域交流センター利用者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道中学校前通り線)	—	水原公民館に地域の交流拠点としての機能を付加させる目的で、新たに整備した市民ギャラリーの利用者が平成28、29年度に整備前と比較して5,000人/年増となり、大幅に増加していることが、利用者全体の増加につながった。						
	公園(天朝山公園)	—							
	地域生活基盤施設(水原総合体育館)	—							
	地方都市リノベーション推進施設(新病院)	—							
	既存建造物活用事業(地域交流センター)	◎							
提案事業									
関連事業	社会資本整備総合交付金事業(市道緑町1号線改修)	—							
	水原中学校整備事業	—							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	企画展の開催などを視野に入れて、引き続き市民ギャラリーの利用促進を図る。				
-------	--------------------------------------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3								
指標名		市立病院利用者数			防災訓練実施団体数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道中学校前通り線)	△	新病院の整備に加えて、歩道整備や市営バス路線の見直しによって、利用者を中心商店街等に誘導するためネットワークと回遊性の向上を図ったことで、平成27、28年度においては前年比5%を超える外来患者数の増加があった。しかし、平成29年度においては産婦人科での診療体制が整わなかったことが要因となり患者数が減少し、目標値には達しなかった。	IV	-	水原総合体育館と水原公民館(地域交流センター)の耐震化による避難所機能の確保及び、新病院における災害時の傷病者救護施設としての機能向上によって、地域住民の防災意識醸成を図ったが、防災活動の活性化への動機付けとして直接的に働かなかったことが要因となり、目標値には達しなかった。	I						
	公園(天朝山公園)	△											
	地域生活基盤施設(水原総合体育館)	-			△								
	地方都市リノベーション推進施設(新病院)	△			×								
	既存建造物活用事業(地域交流センター)	-			×								
提案事業													
関連事業	社会資本整備総合交付金事業(市道緑町1号線改修)	△			-								
	水原中学校整備事業	△			-								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>診療体制の整っていない産婦人科や、市民の健康課題に対処するための消化器内科及び整形外科などの常勤医師を招へいする事業を指定管理者と協働して体制強化に努めることで、外来患者数の増加につなげる。</p>	<p>市主催の防災訓練事業の継続や、自主防災組織育成事業の実施によって、市民の防災意識醸成に直接的に働きかける事業を展開することで、自主防災組織の活動活性化につなげる。</p>
------------------	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 企画財政課、危機管理課 民生部 地域医療推進課、生涯学習課	平成30年6月～9月	総務部 企画財政課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地の核となる施設の整備が必要である。	新病院を中心市街地の核と位置づけ整備し、敷地内へのバス停の引き込みや歩道を整備することによって、患者以外の見舞客や市民が気軽に立ち寄ることができるような、市民の交流拠点機能を担う開放的な施設となった。		
将来にわたって継続的、安定的に良質な医療を提供する地域医療の中核となる病院の整備が求められている。	新病院の整備により、急性期医療から高齢化に対応した慢性期医療、在宅医療支援まで地域に密着した幅広い医療を提供することが可能となり、患者の市外流出を抑制することに貢献した。	新病院整備によりハード面での患者受入れ体制は大幅に向上した。ただし、外来及び入院患者数の向上には、医師の確保をはじめとしたソフト面での診療体制の充実が課題とされる。	
災害時に防災拠点となる公共施設の耐震性の確保が望まれている。	水原総合体育館と水原公民館の耐震化と非常用発電施設の整備による避難所機能の向上と、新病院の整備による災害時の傷病者受入体制の構築によって、防災力の強化が図られた。	避難所としての施設の整備は完了したが、地域市民の防災意識の醸成と、それに伴う自主防災活動の活性化が課題とされる。	
中心市街地の公共施設を結ぶ道路で歩道の整備が不十分であり、安全な歩行を確保することが必要である。	市道中学校前通り線の歩道と、既存自歩道との接続整備に加えて、隣接する中心公園の再整備によって中心商店街までの安全な歩行空間の確保と、長時間まちなかにとどまることが可能なネットワークが構築できた。また、市営バスの運行経路見直しによるまちなかの回遊性の向上も図られた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	市内公共交通の充実	市営バスをはじめとした公共交通について、目的、対象の明確性や速達性の観点から市民のニーズを反映した路線網に改正していくことで、まちなかの回遊性を維持する。	・市営バス運行事業
	中心商店街への誘客の確保	新たに整備した市民ギャラリーでの利用者を継続的に維持するため企画展などを検討する。また、中心公園の利用促進のための周知活動や、買い物弱者等を対象として中心商店街での買い物への誘導を図ることで、中心市街地の更なる活性化を目指す。	・市民ギャラリーでの企画展の実施 ・高齢者等への買い物支援 ・天朝山公園の利用の促進

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	新病院での診療体制の確保	全国的な医師不足の中でも安定的な医療を提供するため、指定管理者と協働して常勤医師の招へいに取り組む。	・新公立病院改革プランに沿った事業取組み、進捗管理 ・新潟大学医学部と連携した寄附講座開設等による共同研究を活用した医師招へい事業
	地域市民の防災意識の醸成	自主防災組織の活動活性化のために、市主催の防災訓練事業の実施や、自治会等を対象とした防災塾や防災講演会、自治会の防災訓練への助言を行うなど、市民の防災意識醸成に直接的に働きかける事業を継続して取り組む。	・自治会や自主防災組織を対象とした防災塾、防災講演会の開催 ・市主催の防災訓練への自治会の参加働きかけ

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

中心市街地の核となる新病院の整備とアクセス歩道の新設により、一定の残された課題があるものの、従前に比べて計画地区の活性化に大きく寄与した。今後は、商店街への誘客を中心としたまちなかへの更なる誘導施策が必要であるとする。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	市立病院利用者数	人/年	90,081	H23	108,535	H29	確定 ●	98,949	△	あり	○	→	平成34年5月	あがの市民病院の年間延外来患者数を計測	あがの市民病院改革プラン最終年度終了後
							見込み			なし					
指標2	地域交流センター利用者数	人/年	36,004	H24	37,000	H29	確定 ●	40,473	○	あり		→			
							見込み			なし					
指標3	防災訓練実施団体数	団体/年	3	H24	10	H29	確定 ●	4	×	あり	○	→	平成33年5月	水原駅周辺地区計画区域内の自主防災組織及び自治会について、防災訓練を実施した団体数を計測	阿賀野市総合計画(基本計画)最終年度終了後
							見込み			なし					
指標4				H		H	確定			あり		→			
							見込み			なし					
指標5				H		H	確定			あり		→			
							見込み			なし					
その他の数値指標1				H	/		確定					→			
その他の数値指標2				H	/		確定					→			
							見込み								
その他の数値指標3				H	/		確定					→			
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		最終年度直近であってもモニタリングを実施することで、追加事業の実施等による目標達成への時点修正が可能となることが想定されるため、モニタリングの実施は有効である。
	うまく いかなかった点	計画上の中間年度にあたる平成27年度は、基幹事業(新病院、地域交流センター、水原総合体育館)が終了していなかったことからモニタリングは実施しないこととした。 結果として、最終年度まで指標の達成傾向を分析することができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページにより評価結果を公表し意見収集を行う。	平成30年10月10日～10月31日	平成30年10月10日～10月31日	担当課への郵送、FAX、電子メール等の受付	総務部 企画財政課
広報掲載・回覧・個別配布	市役所及び各整備施設(水原総合体育館、水原公民館)に印刷物を置き、意見収集を行う。	平成30年10月10日発行	平成30年10月10日～10月31日		
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	なし	平成30年11月16日	総務部 企画財政課	阿賀野市総合計画審議会設置条例	既存組織そのものを位置づけ
その他の委員	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野市認定農業者会前会長 ・阿賀野市金融団代表 ・阿賀野市経営者同友会代表 ・その他不動産業、子育て世代、教育機関、報道機関代表 ・阿賀野市建設業協会代表 ・市民代表 ・阿賀野市観光協会代表 ・ささかみ農業協同組合常務理事 				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--